

いまの歴史

新聞をななめ読み、週刊誌を読み飛ばし、倍速モードでニュースを見れば、よくわかる、すぐわかる、最近の歴史。

【新分野】

画期的な考古学調査法登場
でもネーミングのセンスがちと……

先人の文化を探索・検証し、現代文化の起源や融合点を探すのが考古学。一見この学問は古臭くて後退的に感じられるが、ある意味ではこの学問ほど現代科学を用いているものはない。その中心は確かに地道な発掘調査にあるが、赤外線照射によって発掘物の年代を割り出し、すべての特徴をコンピュータで管理して解析していたりと、現代の先端科学の英知をフルに活用しているのだ。そして、さらに今年から「宇宙考古学」という新分野まで誕生した。これは衛星写真を使って古代の遺跡を推測し、埋もれた遺跡を探索しようというもの。奈良にたあるシルクロード学研究センターの計画によると、この分野でシルクロードの衛星図を作製し、紀元前7世紀頃に発展したウズベキスタン共和国のホレスム地域とシルクロードの隊商都市だったシリヤ・バルミラ地域を調査する予定だという。が、考古学関係者からみれば科学的な手法といえる新分野なのだろうが、ただ衛星写真を使うだけで、安易に「宇宙」と名付けてしまうのはあまり科学的な発想と言えないのでは!?



さて、この人は兄か弟か?

【事件】

「私は兄」で裁判所まで騙し続けた
弟の犯罪がバレたわけ

問題「世界に誇る日本の警察・検察・裁判所を一個人が数年間騙し続けることはできるだろうか。答えは工業を達成(?)したのは京都市東山区のA。4年前に京都市内の電柱にテートクラブのピアを張り、京都府警やとき、彼は名古屋在住の兄になりきり、ままと兄の犯罪として罰金5万円の略式命令を受けた。さらにその後、無免許運転で滋賀県警に捕まると、またもや兄の名前で通し、大津地裁から懲役1年執行猶予4年の判決を受けたなど、彼はことごとく兄の名を語って軽犯罪を繰り返して、驚くべきことに裁判所は兄の犯罪として処理していたのだ。兄にしたらまったモンじゃないと思いきや、Aの犯罪が露見したのは、この兄が無免許運転で逮捕された際に前科の照合でわかったとか。さすが兄弟というべきか。それよりも、この事件に対する検察のコメントが何ともお粗末。「これまで兄になりきれると見破るのは難しい」だ。

【恐怖】

奈良の高校生を襲った
正体も真相もまるで不明
毒性の風

今だ真相がハッキリとしない長野県の毒ガス・サリン事件は、平穏な町の一般市民を震撼させた出来事。こんなことは2度と起こって欲しくないが、先月このサリン事件を彷彿させる現象が奈良県で起こった。現場は奈良県北葛城郡広陵町にある奈良立広陵高校のグラウンド。クラブ活動中のサッカー、野球部員ら20名が突然、目の痛みや発疹の症状を訴え、近くの病院に運ばれ、治療を受けたのだ。治療を受けた生徒たちの話によると、「強い風が吹いたと思ったら急に目が痛くなった」とか「悪臭を感じたら胸や首に赤いぶつぶつができてきた」というもの。奈良県警の調べでは「近くの住民からの被害報告はなかったものの、診察した医師の話によると生徒たちから鼻を突くような薬品臭がしたといっている。まだ原因は全くわからないが何らかの化学物質が付着した形跡もある」というものであった。目に見える天災や人災も恐ろしいが、目に見えない現象ほど恐ろしいものはない。やはり、これもノストラダムスのいう世紀末現象の一つなのだろうか。



フジモリ大統領一族は、もともと上州群馬……ではなくて熊本の出身です。

【政治】

雄々しき者、汝の名は女性なり

ペルーに吹き荒れるカチア天下の嵐

いま日本の政治家で一番人気があるのは、なんといいまでも田中真紀子。父親譲りの毒舌とその態度は、永田町に棲む老体やNOともいえない男性政治家よりもバワフルで実直。「国際的に難しい立場にいる現状の日本を考えれば、彼女が首相になることがいい」なんて言い出す政治評論家も出てくるほど、彼女を支持する国民が日に日に増加しているのは、ご存知の通り。この田中真紀子のように、ペルーで国民の注目を集めているのがスサーナ夫人。あの初めての日系大統領、アルベルト・フジモリ氏の奥方だ。

フジモリ氏がペルーの不安定な情勢を解決できないのに嫌気がさしてか、夫人自ら大統領選挙への出馬を表明し、現在激しい家庭内争議を展開。怒ったフジモリ氏は彼女をファーストレディーの公務から外すと発表した。が、このときの世論調査で大統領への支持は39%。これに対し、夫人への支持は53%とスサーナ夫人の人気がいかに高まったというのだ。確かに現代政治は男女平等だが、女性政治家は男らしく、男性政治家は女々しくとは、ああ情けない！

【流行】

学生証もパスポートも全部カード

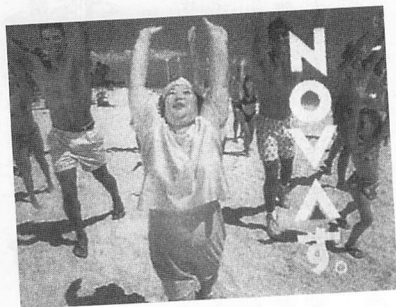
難点は財布なり全部落とすこと？

現代は、金融をはじめに様々なカードが氾濫している。中でも近頃普及しはじめているのがIDカード。正式には「IDENTITY CARD」といい、身分証明がその主な役割。会社で用いられるものは、本人の所属部署をはじめ、社内で使えるように様々なデータが組み込まれていたり、大学などで使われているものは、出席の確認や図書館カード、銀行口座と組み合わせたキャッシュカードのデータが入力されていて、その用途は幅広い。先頃行われた広島のアジア大会では、このIDカードにビザ(査証)の効力を持たせて、入国手続きの緩和を図ったという。カード一枚で面倒臭い渡航手続きが不要というのは国際的に好評で、将来的にはパスポートもIDカードになる計画があるという。数年後には免許証もIDカードになるというし、カード社会は日々発展している。だが現状では問題もある。それはカードが一枚にならないこと。カード会社のデータ交換がまだ十分にできないのだ。だからこれからも財布は、お金よりもカードで厚くなる。

【社会】

何がノープロブレムなんだか NOVAの全従業員薬物検査

いきなり「薬物検査」をするといわれたら、身に覚えのない人はきつと激怒するはず。しかもそれが仕事場となると、さらに怒りは増すのではないだろうか。「駅前留学のアイ・アム・NOVA」で有名になった英会話学校の最大手「ノヴァ」は、全従業員を対象に定期的に薬物検査を行うことを発表した。この前代未聞の検査が行われるきっかけとなったのは、7月に同校の外国人講師が大麻所持で逮捕されたことにより、他の外国人講師の間から「逮捕された元講師と同じ目で見られて困る」と苦情を訴えたことらしい。だがこれがどうもうさん臭い。なぜなら、ノヴァがこども堂々と薬物検査をすると発表した背景には、現在巷に英会話学校が増え、ある程度日本語が話せる外国人ならばすぐに講師として雇うという傾向があるからなのだ。しかも、まともな講師からすれば、こんな検査など言語道断。外国人労組が声明を出したように、これは人権侵害だ。講師から不良外国人を一掃するには、薬物検査よりも雇用方法の改善が一番。何ならアツオさんの意見も聞いてくれ。



超ふるぶれむ、あいあむのば/V/V/V/V

いまの